

Robotics Report

新たな常識のはじまり

身近で活躍する 医療・ヘルスケア分野のロボティクス

nikko am
fund academy



AI(人工知能)やロボットが急スピードで普及する中、私たちの身近なところでもイノベーションが起ころうとしています。その一つが、ロボティクスなどの最新技術を用いて医療に関する多くの課題を解決しようとする動きです。

そこで、今回は各国が注目する医療・ヘルスケア分野の展望を探ってみたいと思います。

■ 2022年に市場規模約80億米ドルと予測されるデジタル・ヘルスケア産業

AIとヘルスケア・医療・介護を組み合わせたデジタル・ヘルスケア産業の領域は幅広く、次の大きく5つに分けることができます。

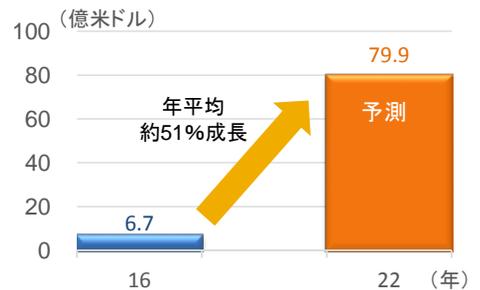
- ①ロボット医療(手術ロボットなど)、②薬物研究(AIを使用したシミュレーションやデータ解析)、③AI診断システム(カルテ分析・画像診断)、④AI健康管理(心拍数や血糖値などの情報をビッグデータ化し、顧客にアドバイス)、⑤DNA解析・検査(主にがん治療に応用)

このように、手術などの用途に応じたロボットの開発と、診断・データ分析・健康管理で利用するAI開発が大きな柱となっています。

米調査会社によると、デジタル・ヘルスケア産業の世界市場規模は、16年の約6.7億米ドル(約754億円※)から、22年には約79.9億米ドル(約9,027億円※)になると予測されており、最先端の技術を融合させた「近未来の医療」に世界中が注目していることがうかがえます。

※1米ドル=113円

【デジタル・ヘルスケア産業の世界市場規模】

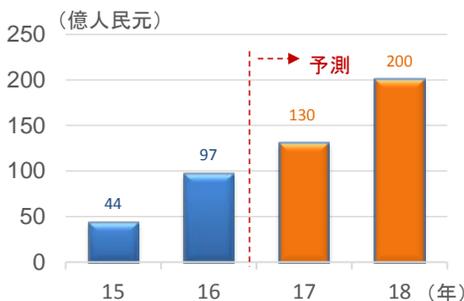


出所: MarketsandMarkets「Artificial Intelligence in Healthcare Market by Offering ,Technology, Application, End-User Industry, NLP,and Geography - Global Forecast to 2022」の値を基に日興アセットマネジメントが作成

■ 世界で先行する深センの医療系ベンチャー企業

現在、この分野は米国と中国が世界で先行しています。米国では、例えば、ゲノム解析で患者に合ったがん治療(テーラーメイド医療)を提案するFoundation Medicine社(ナスダック上場)や、腫瘍学(主にがん)に特化した医療プラットフォームを提供するFlatiron Health社(アルファベットの投資部門も出資)などが有名です。

【中国のAI医療・ヘルスケア産業の市場規模】



出所: 中国数字医療網「2016-2017年度 人工知能+医療市場分析及び趨勢報告」の値を基に日興アセットマネジメントが作成

一方、中国では、16年8月に発表された医療サービス改革「健康中国2030計画」も後押しし、ロボット・AI産業の拠点である深セン市で、医療・ヘルスケア関連のベンチャーが活躍しており、世界中から人材や資本が集まっています。例えば、日本を含む海外で多くの拠点を持つゲノム解析大手BGI(華大基因)が有名で、今年8月に深セン市場に上場しました。そのほか、遺伝子情報を含む顧客の健康情報データを収集・解析して患者・医療機関・製薬会社にサービス提供を行なうiCarbonX社(碳雲知能)は、非上場にもかかわらず、設立半年で企業価値が10億米ドルと評価されるなど、注目企業が多いようです。

※グラフ・データは過去のものおよび予測であり、将来を約束するものではありません。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

(当レポートは、株式会社ロボティアの情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。)

■当資料は、日興アセットマネジメントがロボティクスに関する情報についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。